

# 府障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

# 平和への思い、全国につながる

## 全国女性教職員学習交流集会 in 島根



夕食交流会の様子

全体会は、安来節本部道場「少年の部有志」による演奏で幕を開けました。中高生4人によるのびやかな安来節、銭太鼓の見事なパフォーマンス、そしてどじょう掬いのコミカルな動きとユーモラスな表情に、会場から惜しみない拍手が送られました。現地実行委員による文化行事は、神話にちなんだ人形劇と松江出身の竹内まりやさん作の「いのち

10月8日～9日、島根県松江市くにびきメッセ会場に、第26回女性教職員学習交流集会(主催:全国女性部・教組共闘連絡会・現地実行委員会)が開催されました。2日間で357人が参加し、語り合い、学び合い、笑いと感動を共にしました。

### 沖縄への連帯の思いが高まる

「うた」の合唱でした。記念講演は、「子どもたちに基地も戦争もない未来を手渡すために」と題して、沖縄の高江で暮らす安次嶺あしみな(雪音さん)「ヘリパッドいらない」住民の会(を講師に行われました。安次嶺さんは、やんば

### 参加者の感想より

今回で3回目の参加となりました。全体会での沖縄県高江在住の安次嶺さんのお話が衝撃的でした。まず写真で高江のやんばの森を紹介してくださり、そこでのびのびと生活している子どもたちの表情が印象的でした。しかし、今その生活が脅かされています。オスプレイが夜中に飛行訓練を行っている際の騒音を、自宅で録音したものを聞かせていただきましたが、想像以上の音にびっくりしました。でも、実際はもっと大きく、低周波で体への振動もあるとのこと、これが夜中に何度もあって眠れないため、子どもたちは学校に行けなくなり、別の場所に移ったとのことでした。

これが今、沖縄に起こっていることです。あたりまえの生活さえ奪う、米軍の存在、政府の市民への攻撃……。こうした事実を実際に住民の方から直接聞き、ショックとともに、あきらめずに行動されている住民の方々の勇氣に自分の気持ちが揺さぶられました。私は、「沖縄のことをまだまだ知らないし、みんなにも知らせないと！」と強く思いました。この学習交流集会では、毎回、多くを学び、終わってからのツアーでリフレッシュできます。今回のツアーでは立久恵峡の景色が最高でした。

(東大阪支援学校分会 荒谷美里)

### 全国の女性パワーでたっぷり充電

夕食交流会では、各ブロックで趣向を凝らしたステージが繰り広げられました。近畿ブロックは大勝利を披露し、大いに盛り上がりました。本場の和菓子とお抹茶、出雲そばとしじみ汁もふるまわれ、の森の豊かな自然と、その中でのびのびと育つ子どもたちの様子を語りました。そして今、その豊かで貴重な自然を破壊し、くらしを脅かすヘリパッドオスプレイ(建設がどのように進められてきたのかを強く訴えました。安次嶺さんの言葉に、多くの参加者の沖縄への連帯の思いが高まりました。

集会後は、大教組女性部のオプショナルツアーで、宍道湖を經由して立久恵峡を真正面に眺める絶景の宿で一泊温泉を堪能し、出雲大社や松江城、小泉八雲記念館などを巡って帰路につきました。全国の女性のパワーをもらい、たっぷり充電できた三日間でした。

### 書記局のひとりごと

2008年の世界金融危機以降、各国では様々な対策がとられてきましたが、未だに世界的な経済危機が続いています。その本因は、貧困と格差の拡大にあるという認識が、主要な国際機関でも共有されるようになってきました。

経済協力開発機構(ECD)は、金利を限りなくゼロに近づける金融緩和策により、一部の富裕層や大企業に富が集中して所得格差が拡大した結果、消費や投資がおちこんだと分析しました。さらに、教育機会・健康維持・就業機会などの不平等も拡大して経済的活力も高まらず、成長への期待が失われる状況にまで、世界経済は追い込まれているとしています。

ECDは、このことを踏まえて、平等が経済成長の推進力だと強調しました。具体的には、富が集中しているところに自分の負担を求め、富などで、教育の機会均等・子どもや家族の支援・健康保険の充実・失業手当や職業訓練の充実を進める政策を提起しました。

十分な高等教育がより良い職業を保障し、それが労働力の質を高め、より生産性の高い社会を実現する好循環が生まれるというわけです。ECDのこうした考え方は、G20の成長戦略の柱となり、主要な国際機関が具体化しつつあります。また、国際通貨基金(IMF)も日本に対して、アベノミクスで増えた企業収益が労働者に還元されないことが、低成長の原因だと、所得を増やす政策を求めました。

「アベノミクスは道半ば」と言い訳を繰り返し、異常な金融緩和や雇用破壊の政策をすすめる安倍政権を尻目に、世界はすでに別の道を進もうとしています。

各ブロックのとりくみ  
紹介 その5

人材づくりではなく人格づくりを

北摂・豊能支援学校9校交流会 「障がい児教育を語るつどい」



9月10日、支援学校9校交流会「障がい児教育を語るつどい」が、たかつガーデンで開催され、大手前・中津・茨木・箕面・高槻・豊中、吹田・摂津の各職場から22人が参加しました。

中島宏子さん(豊中支援)、川村典子さん(摂津支援)、西田裕志さん(大手前分校)に、「障がい児教育で大切にしてきたこと」をお話していただき、その後、意見交換や交流を行いました。



つどいには22人が参加しました

中島さんは、「障害児教育35年間、茨木6年間、八尾11年間、高槻13年間、豊中5年目」の歩みを振り返ってと題して報告されました。

重度生徒の課題に見合った教育課程づくり(茨木時代)、全障研サークル活動や、青年期教育の探求をテーマにした研究部でのとりくみ、豊かな青年期教育の創造を目指して探求してきたこと(八

尾時代)は、困難な中でも子どもを中心に据えて仲間とともに奮闘する姿が浮き彫りになり、感銘を受けました。

尾時代は「困難な中でも子どもを中心に据えて仲間とともに奮闘する姿が浮き彫りになり、感銘を受けました。」

「問題行動は禁止文句の洪水ではなくこだわりの切り替えで本人の好みに沿うものでやってみる」と語られたことはみんなで心に刻みたい言葉でした。

「2015年枚方、むらの高等、西浦支援学校開校」までを、自らの35年間の歩みと重ねて教育情勢年表として作成されました。それを見ると、中島さんの障害児教育にかけ

「心くじける管理職の文言チェックとは別に、トークで生徒の成長を共有財産にしていけたらと思う」と最近の心境を述べつつ、すすむ管理強化に愚痴ることもあるが、やはり最後に残るのは、誠実かな(35年前、清水寛氏から紹介された、教育とは誠実を胸に刻むこと)の言葉がやっとなった。キャリアの文言が飛び交う教育情勢ですが、ここだけははずせない。教育に究極は、人材づくりで

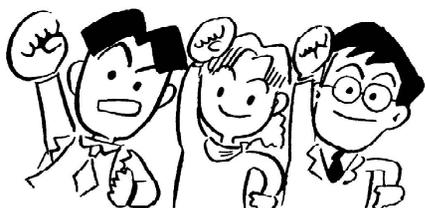


発表する川村さん

不当な賃下げ勧告をはね返し、生活改善につながる賃上げを府労組連秋季年末闘争決起集会

日時：11月10日(木)午後7時  
場所：エル大阪南館 5階ホール  
(京阪・地下鉄谷町線「天満橋駅」より西へ300m)

「あたりまえの賃上げの実現と異常な時間外労働の縮減を求める要求署名」をすべての職場から持ち寄りました。



ばならない。実態に即した授業作りに努めていきたい」と述べました。西田さんは、「知的・聴覚・肢体 三つの学校での教育実践と組合活動」と題し、たくさん画像を示しながら、発達段階に合った指導機能障がい状況を考慮した活動内容の大切さを強調されました。(お二人の報告も力のもった内容でしたが、紙面の都合上、詳しく触れることができません。残念です。)



発表する西田さん

参加者からはベテランの

先生方の取り組まれて来られたことを、学ぶことができてよかったです。私はこれから子どもと一緒に成長していけるように1日1日を大切にがんばっていきましょう。日頃は日々の業務をこなすことに必死になっていますが、今日ここにきて、「心」を柔らかく、「目」を向けることができました。ありがとうございました。(吹田支援学校分会・井上雅晴)